

## 令和 5 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東粉浜小学校協議会

## 1 総括についての評価

「安全・安心な教育の推進」では、常に危機感を持ちながら見守り続けてきた。日頃から複数の教職員で児童のようすに対して情報共有をし、組織的に SC や SSW など関係諸機関とも連携しながら継続的に進めてきた。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、学力経年調査の標準化得点で、概ねどの学年もほぼ 100 を超えることができ、一定の学力の定着を図ることができた。体力面では、全国体力・運動能力、運動習慣等調査で一定の成果をあげてはいるが、まだコロナ禍で低下した体力においてはまだまだ課題が残る。

「学びを支える教育環境の充実」では、今年度取り組んだリーディング DX スクール事業で、一人一台学習者用端末を活用した新しい授業スタイルや、ペーパーレスや業務軽減などの働き方改革の推進に向けて取り組んだ成果がある。保護者・地域や関係諸団体と連携しながら、取り組んでいただきたい。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

## 最重要目標 1 安全・安心な教育の推進

## 全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

## 学校の年度目標

- 令和 5 年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持ってますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度より増加させる。
- 生活振り返りカード（東粉浜マイスターカード）の各項目について毎月保護者と児童が話し合い、学校や家庭生活を振り返り、自己の課題を明確にして改善に取り組む。
- いじめはいつどこで起こり得るかわからない。日頃から気づきを大切にしてほしい。組織的に対応できているのがいい。見守り隊や地域、SC や SSW との連携をはじめ、「いじめ虐待防止委員会」（スクリーニング会議Ⅱ）など引き続きお願いしたい。
- 子どもの実態把握や心に寄り添った指導を徹底してほしい。
- 各学年の実態に応じた防災週間や「道徳の日」の取り組みはとても良いことである。地域の訓練にも子どもたちが参加できるとなお良い。
- 「本物」のゲストティーチャーを招待したキャリア教育は、様々なキャリアにあこがれを持ついい機会であるとともに、自分の将来について考えることができる良さがあるので継続すると良い。
- 年間を通して行うたてわり班活動やできる限りほめて伸ばすという指導を心がけて自尊感情の育成に努めているのはよい。同時に指導すべきことはきちんと指導を徹底し続けていくほしい。
- 数値としては達成できなかったが、取り組み内容の指標においては十分に達成できていることから評価を上げてもよいのではないだろうか。

## 最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上

## 全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考え

を深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。(R4年度43.5%)

- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上する。(R4年度68.7%)

#### 学校の年度目標

- 令和5年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を90%以上に維持する。
- 学力面では大阪市平均と比較する中でよい結果を残せているが、成果と課題をふまえ誰一人取り残さない学力の向上に向けて引き続き取り組んでほしい。
- 共同編集やスライドづくりなど端末を活用した協働的な学びも取り組んでいて良い。
- 英語は小学生低学年からヒアリングの機会が増えていて、慣れ親しむことが重要である。アルファベットの読み書きはできるようになると良い。
- 体力向上に関しての課題もあるが、体調不良、けがの対応も多いので、保健教育の充実も大切である。
- 今後も各家庭の実情に合った生活習慣の確立が大切であることを伝えていく必要がある。
- 数値としては達成できなかったが、取り組み内容の指標においては十分に達成できていることから評価を上げてもよいのではないだろうか。

#### 最重要目標3 学びを支える教育環境の充実

##### 全市共通目標（小学校）

- デジタル教材や学習者用端末等ICT機器を活用した授業を毎日1回以上行う。
- ゆとりの日や午後6時までに退勤する日を週1回以上設定する。

##### 学校の年度目標

- 年度末の校内調査において、「読書は好きですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合が80%以上を維持する。
- ICT機器を使った学習が充実している。情報活用能力、情報モラルの育成にも力をいれられていることもよくわかった。
- 長時間勤務の改善に向けて学校でいろいろな工夫をしていることがよくわかった。身体には十分にご留意いただきたい。
- 昨年度より数値は下がっているものの、学校で進んで本に親しんでいる姿は見かける。端末といった便利なものが普及されているからこそ、子ども達が本を手にとって親しんほしい。

### 3 今後の学校園の運営についての意見

一人一台学習者用端末を活用し、スクールライフノートの「心の天気」「相談機能」「いいとこみつけ」も日々チェックし活用をしていく。今後、学力面ではさらに読解力を伸ばし、まず自分の思いをしっかりと持ったうえで、コミュニケーション力をさらに磨き、周りの人伝えあい、深めあえるように育んでいく。体力面では、系統立てた専科指導による計画的な体育学習を進めたり、意欲的に取り組むことができる体育行事やそれに関連する頑張りカード、表彰などを工夫したりすることで、より意欲的にすすんで体力向上に努めていくよう働きかけていく。働き方改革においては、端末を活用したオンラインによる情報共有などをすることで、会議内容・行事の精選を行い、さらに日々の業務を減らす方策を考えていく。